



西尾いきものふれあいの里だより

8月号

2025.8.1 発行

さとやま

8月の里といきもの



今年この地方は6月に梅雨が明けましたが、その後7月に入っても大気が不安定で、激しい雨が降る日もありました。気温は高いのに蝉の鳴き始めは少し遅かったような気がします。

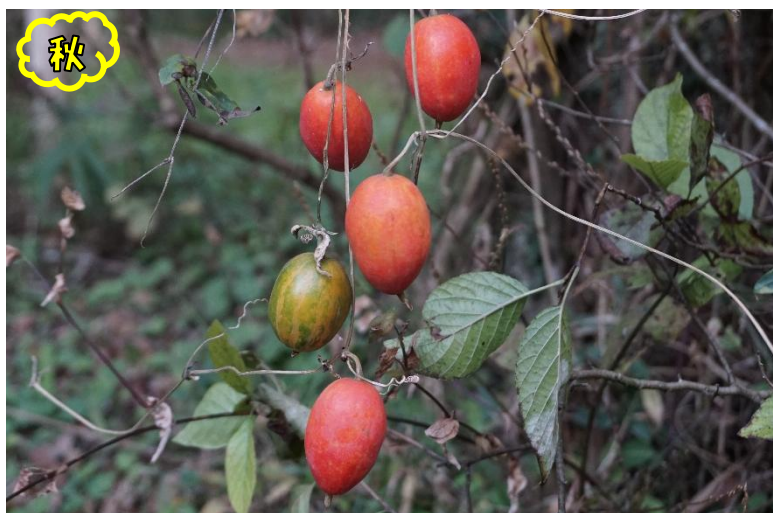
こうして始まった夏ですが、8月にはさらに気温の高い日が続く予報です。トンボの里や万灯山エリアでは、先月にもご紹介した**ヤブミョウガ**の花が、涼し気に群生しています。

そんな里のあちこちで、こんな縞模様の実が垂れ下がっているのを見かけます



これは、ウリ科のつる性多年草**カラスウリ**の若い実です。スイカなどウリ科の実によく見られますが、草むらや影に溶け込み、捕食者から実を守る効果があったり、模様の濃淡が光の吸収や反射を調整し、果実内部の温度を適切に保つと言われています。

秋には全体に赤くなり、縞は見えなくなります。



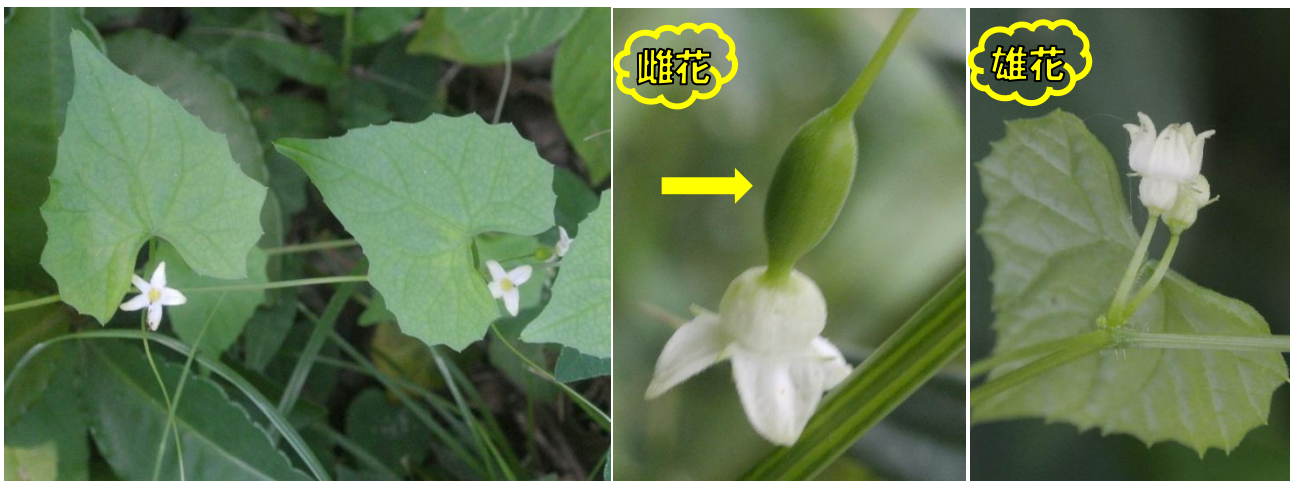
カラスウリの花は日没後に開き、翌朝にはしぼんでしまいます。朝早く写真のようにレースを広げたような花に出逢うことがあります。深夜にはもっと美しく広がっています。



雌雄異株で、雌花をつける株と雄花をつける株があります。つぼみを見ると、雌花は茎に1つだけつき、根元が膨らんでいます。雄花はいくつか集まっていて、これが順番に1つずつ咲いていきます。花が終わると、雄花は落ちてしまい、雌花は根元の膨らんだ部分が大きくなっていき実になります。

ところで、カラスウリ（烏瓜）の名の由来ですが、カラスが食べるからだという説がありますが、実には苦みがあり、実際に食べることはあまりないようです。

トンボの里では、こんなかわいい白い花が見つかります



これもウリ科のつる性1年草、[スズメウリ](#)です。こちらは雌雄同株で、同じ株に雌花と雄花がつけます。雌花はやはり花の根元が膨らんでいます。

若い果実は緑色で、わずかに縞模様が見えます。カラスウリに対し小さいのでスズメと名がついたようです。秋が深まると灰白色に変わります。たくさん実ると玉すだれのようになります。ちなみに、実には甘味があるそうです。



こんなウリたちを探してみてください。

8月はこんな生きものも見られます

駐車場北側などでは、ユリの花によく似たオレンジ色の、ツルボラン科の多年草、**ノカンゾウ**の花が咲きます。一日花で、朝に咲いて夕方にはしぼみませんが、次々とつぼみが開花するため、株全体では1か月ほど咲き続けます。

ビオトープ上の池では、里ではそこで見られない、キンポウゲ科の**アキカラマツ**の花が見られます。温暖化のせいか、最近では花のつきが悪いようです。

田んぼエリアに向かう道では、マメ科のフジの仲間のつる性落葉木本、**ナツフジ**の白っぽい花が咲いているのを見かけることがあります。



田んぼエリア入り口などでは、キンポウゲ科のつる性木本、**センニンソウ**の白い花が、雪が降り積もったように咲きます。名前は、花の後の果実の姿から付きました。

田のあぜなど湿ったところでは、マメ科の1年草**クサネム**の黄色い花が咲いています。葉がネムノキの葉に似ていて、触れると閉じる「就眠運動」を行うところも似ています。

水路の横の石垣には、オトギリソウ科の多年草、**オトギリソウ**の花が咲きます。葉や花には、名の由来となった物語を生んだ、小さな黒い斑点がたくさん見られます。お昼を過ぎると閉じてしまいます。



田んぼの水面には、絶滅が危惧されている、**イチョウウキゴケ**が浮いているのを見つけることがあります。ウキゴケ科の浮遊性のコケ植物で、環境によっては湿った土の上でも生育できます。

里のあちこちでよい香りに誘われて見つけるのは、**クサギ**の変わった形の花です。シソ科の落葉小高木で、葉の方は傷つけるとビタミン剤のような独特のにおいがします。

また日陰の湿った場所では、カワトンボ科の**ハグロトンボ**に出逢うことがあります。オスは、ときどき翅を開閉する仕草が見られます。縄張りのアピールや、雌へのディスプレイではないかと言われています。人が手を合わせ祈る姿に似ていることから、極楽トンボと呼ばれることもあるそうです。

こんないきものを探して、里を散策してみましょう。ただし、熱中症にはご注意ください。

7月の行事紹介



「梅雨時のキノコを観察しよう」を7月13日（日）に開催しました。

例年より早い梅雨明けで、暑い日が続きキノコが出ているか心配でしたが、湿った地面や枯れた木などで、数種類のキノコを採取することができました。

採取してきたキノコを一か所に集めて、講師からキノコの種名や特性など教えてもらい、ルーペや顕微鏡を使い楽しいキノコ観察の時間を過ごすことができました。

8月の行事予定

3日（日）	里の小川で生きものを探そう	30名	AM 9:30～11:30	神本 晃
-------	---------------	-----	---------------	------

内容 ～ 山から湧き出る水は里山を流れる小川となり、そこには色々な生きものが棲んでいます。

川に入って、タモで捕まえた生きものを観察します。矢作川流域のいきものとの違いも調べてみましょう。

24日（日）	ガラスの破片でアクセサリを作ろう！	20名	AM 9:30～11:30	三矢由紀子
--------	-------------------	-----	---------------	-------

内容 ～ 西尾市の佐久島で集めたガラスの破片（シーグラス）を使ってアクセサリを作ります。

シーグラスができたあがるお話から漂着ゴミのお話を聞いて自分のまわりのゴミについて考えてみよう。

（材料費：200円）

9月の行事予定

7日（日）	木粉粘土で里のへんてこ怪獣を作ろう！	20名	AM 9:30～11:30	三矢由紀子
-------	--------------------	-----	---------------	-------

内容 ～ 里山を散策して、小枝・葉っぱなどを拾い、怪獣作りの材料集めを行います。木粉粘土に拾ってきた小枝等をぶずぶずさして怪獣(?)を作ろう。＝小学校低学年向け＝ 親子で参加してね。 （材料費：200円）

21日（日）	楽しい絵手紙	20名	AM 9:30～11:30	市川百合子
--------	--------	-----	---------------	-------

内容 ～ 白いハガキからはみ出すように、心をこめて自然の生きものを描きます。

友人や親しい人に送れば、きっと喜んで頂けます。初心者歓迎。楽しんで書きましょう。（材料費：100円）

28日（日）	ゆっくり 俳キング	20名	AM 9:30～11:30	服部くらら
--------	-----------	-----	---------------	-------

内容 ～ 里山をゆっくり歩くと五感にスイッチが入り、普段では気づけないことに一杯出会えます。

その時の驚きや嬉しさをあたためると、もう一句になってしまうんですよ。

◇ **参加受付**は、各講座3週間前の午前8時30分から先着順に受け付け、来園、または電話受付し、お申込みは本人、もしくはその同居家族までとします。なお、申込者が**4名以下の場合**は開講しません。

◇ **参加申込者**は傷害保険に加入するため、小学生以上の方とします。なお、小さいお子さまをお連れいただいても構いませんが「見学扱い」とし、傷害保険の加入はありません。

◇ **当日の天候により**、講座の中止・延期、または講座の内容を変更する場合があります。

◇ 原則、**参加費は無料**ですが、講座により**材料費は実費**を申し受けます。[講師に直接払う]◇ **各講座の詳細な内容**については、直接ネイチャーセンターにご確認ください。

西尾いきものふれあいの里ネイチャーセンター

◆ところ 〒445-0031 愛知県西尾市家武町小草3番地 Tel・Fax 0563-52-0266

◆休日 毎週月曜日・祝日の翌日・年末年始 [12/28～1/4] ◆発行 西尾市環境部 環境保全課